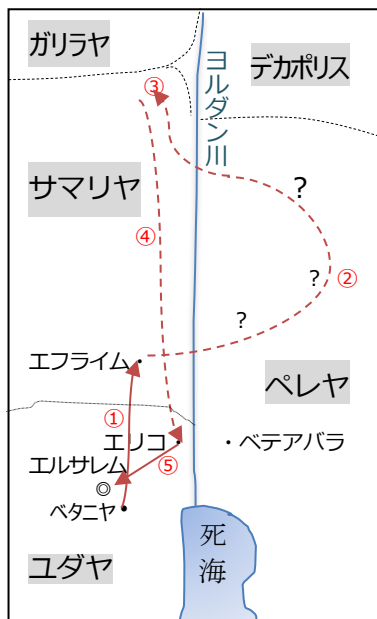


「十人のツァラアトの癒し」



主イエスがラザロをよみがえらせた情報は、あっという間に広まった。その衝撃は、エルサレムの祭司長たち、パリサイ人たちに深い嫉^{ねた}みを引き起こさせ、その時から、本格的に主イエスを殺す企みが動き始めたのである(ヨハネ 11:53)。

しかし主イエスに与えられた神の計画は、過越の祭の直前に、石打ちではなく木に架けられ、多くの人々の面前で、全ての人の罪を身に負い呪われて死ぬことである。

それにはまだ少し時があった。主イエスはベタニヤを去られ、エフライムに留まれ、その後またペレヤ地方へ行かれ、どこをどのように辿られたかは詳しく分からないが、北はサマリヤとガリラヤに近い方まで伝道され、その後、十字架に架けられるためエルサレムへ向かわれたのである。

この最後の旅のサマリヤで主イエスを喜ばせたのは、ツァラアトに冒された1人のサマリヤ人である。彼は癒されて終わりではなく「救い」の恵みにも与った。彼の感謝を献げずにおれない信仰を主は喜ばれたのである。

[聖書の学び]

今回のルカ 17:11～19 をキリストの歩みのどの時点に入れるかは、様々な解釈があるが、今回は小島伊助師のキリスト伝の解釈を基にしている。

I、10人のツァラアトに冒された病人 (ルカ 17:11～13)

1、聖書の時代のツァラアトという病気について知っていますか？

- ◎聖書では人の皮膚だけでなく、壁や衣服にも起こると記され現在も厳密には解明されていない。
(症状がハンセン氏病と似ているため、以前はライ病と一括りで表現されていた。)
- ◎聖書の中では罪が原因で起きる病^{ねた}気と見られていた。
 - ・モーセの姉ミリヤム：嫉^{ねた}みのためツァラアトになり、全身が真白になった。(民数記 12 章)
 - ・預言者エリシャの僕、ゲハジ：欲のためツァラアトになり、全身が真白になった(Ⅱ列王 5:20～27)
- ◎当時は伝染病として隔離され、多くの場合、感染者が互いに看護しながら暮らしていた。
- ◎風が彼らの方から吹いている場合、健康な人と最低 45m 離れて立ち、「私たちは汚れた者です」と言わねばならない決まりがあった。また、健康な人は最低間 2 m、それ以上近寄って来るようなら石を投げて殺してもいいとさえ言われ、差別されていた。

2、病人たちの求め (ルカ 17:12～14)

①彼らが出て来る事は何を意味していたと思われますか？

彼らはどんな思いだったと想いますか？想像してみましょう（v12）

②彼らのできることは何でしたか？（v13）

（彼らには主イエスに熱心をお願いしてくれる家族も、友人もない。神の前に善行も努力もできない。
主イエスに近づいて懇願することもできなかった）

Ⅱ、主イエスの応答

（ルカ 17:14）

1、主イエスは彼らを憐れみ、癒そうと決意され何と言われましたか

①「行ってからだを祭司に見せなさい」…すでに癒しをした後のような言い方である。

②癒された後の社会的復帰のために、回復後の対応を指示されました。

※祭司による癒しの診断：レビ記 14:1～9

（この診断により、家族との同居、神殿への出入りも再び許される）

2、10 人の信仰による行動はどうでしたか？

Ⅲ、癒された者たちの対応

（ヨハネ 10:17～29）

1、主イエスの所に戻って来た人と他の 9 人の違いは何でしょうか？

①戻ってきたサマリヤ人…癒された恵みを、神様からの憐れみと受け止めた

（v15）

※癒しの恵みが与えられることが期待できないにも関わらず、癒して頂いた。

②戻って来なかったユダヤ人を含む 9 人… 癒された喜びで、癒し主を思わない。

（体は癒されても、やがて死ぬときが来る）

2、主イエスは何と言われましたか？（v18、19）

※「あなたを救ったのです」… 彼が得たのは肉体の癒しだけでなく、永遠の救いである。

3、「他国人」の救いを現す主イエスのこのことばは（v18）、この後の
異邦人の入信の予表的記事になっている。（使徒 8 章）

* **ディスカッション** （心を開いて互いに話し合ってみましょう）

Q. 今日の学びについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。